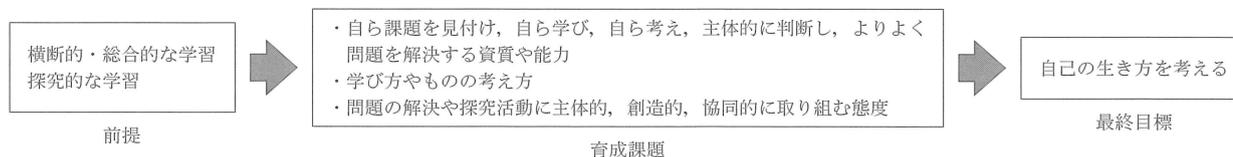


「学び合い」を活性化するための総合的な学習の時間のデザイン

2008年の学習指導要領改訂によって総合的な学習の時間における目標が示された。その内容は、下図の通り整理される。



図をもとに総合的な学習の時間における思考力・判断力・表現力とそれらを育成する学び合い、学びをいかすことについて考察していく。

1 総合的な学習の時間における思考力・判断力・表現力とそれらを育成する学び合い

日常生活や社会と関わるような横断的・総合的な課題や地域や学校の特色に応じたテーマを設定したうえで、いかに探究的な学習活動へとつなげていくかが重要である。とりわけ、①他者と協同して問題を解決する学習活動、②言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、の重要性が指摘されている（小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編）。設定されたテーマに関して自ら課題を発見し、それに関連する情報を収集した上で、それらを整理・分析したり、グループで考えを出し合ったりする。そして、さらなる問題の解決に取り組んだり、考えや意見などをまとめて表現したりする活動へと発展させていくことで、①、②が達成される。つまり、テーマの設定如何によって思考力・判断力・表現力の質が異なってくるのである。児童が深く探究できるテーマであれば、課題意識を持続・発展させることができ、情報の収集や他者との協同も必然的に生じてくる。そして、学習を進めていく中で、自己の生き方として掲げられる「自らの生活や行動」「学ぶことの意味や価値」「現在及び将来の自己の生き方」を考えることにもつながるのである。それゆえ、「問題解決」し、「探究活動」をしたいと児童が思えるテーマの設定が不可欠なのである。

2 総合的な学習の時間における学びをいかすということ

総合的な学習の時間においては、「各教科、道徳、外国語活動及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにする」ことと「総合的な学習の時間で身に付けた資質や能力及び態度を各教科等で生かしていくことも大切」とされている（小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編）。それらが、総合的な学習の時間における学びをいかすということになり、つまりは各教科等と総合的な学習の時間で習得した知識・技能等をそれぞれの場面で往還的に発揮するところにある。

しかし、学習の転移には、①先行学習での十分な学習、②複数の文脈での指導、③既有知識を踏まえた誤概念の修正と新たな学習の促進、などの条件がある（米国学術研究推進会議、2000）。それゆえ、各教科等での知識・技能の十分な学習を前提として、何をどの場面で発揮させるのか、また、総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力・態度を各教科等にいかにつなげていくかを意識的にデザインしない限り、それらが連動しないのである。だからこそ、教師の総合的な学習の時間のカリキュラムデザインが問われるのであり、日々の実践の中でビジョンをもって実践することが求められるのである。（共同研究者：島根大学教育学部初等教育開発講座、深見 俊崇）

【参考文献等】

- ・『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』文部科学省、2008
- ・米国学術研究推進会『授業を変える：認知心理学のさらなる挑戦』北大路書房、2002